地域と地域の農業を守るために

鳥取市　農事組合法人ファームなかいいち
代表理事　田中 俊一

1　はじめに

河原町西郷地区に位置する中井一集落は、平成２４年１月現在で世帯数３７世帯、人口１２８人で人口は減少傾向にあり、高齢化率は３５％で年々高くなっている。

農家は２６世帯で中山間地の小規模耕地で作業効率が悪く、周辺集落では耕作放棄地が出始めているが、当集落は平成３年度に生産組合を設立し、集団転作や農業用機械（田植機、コンバイン・乾燥機等）の共同化を行い、過剰投資の抑制と耕作放棄地防止を図るとともに平成１２年度から「中山間地域等直接支払事業」を、平成１９年度から「農地・水・環境保全向上対策事業」に取り組み、環境保全と農業用施設の維持・改善に努めてきた。そして、中山間地域等直接支払事業を過年中止した近隣２集落を本集落の事業に取り込み、耕作放棄地防止の取り組みとして、平成２２年度からその対象範囲を拡大してきた。

生産組合で当集落及び周辺地域の農業の将来像を検討する中で、大半の地権者の意向により平成２２年度に「中井一水稲生産組合」を設立し、水稲と大豆を栽培した。

設立総会

これを発展させ平成２３年４月に「農事組合法人ファームなかいいち」を設立し、水稲（食用米、加工米）を栽培した。

また、当集落の活性化を図るために、平成１８年度から２２年度まで「鳥取市自立支援交付金事業」に取組み、集落の拠点施設として中井一ふるさと交流館を建築し、部落・実行組合・生産組合・老人会・婦人会・子ども会が協力して、獅子舞・お釈迦様の花まつり・お講などの伝統行事や各団体の行事の充実を図るとともに、新たな取り組みとして毎年「田んぼの学校」を開催し、田植・稲刈り・脱穀と併せて、さつま芋等の栽培・収穫、そして農道法面に村の花「水仙」の植栽や「河鹿の声を聞き、ホタルを見る会」なども開催し、環境保全にも取り組んできた。

これから、「農事組合法人ファームなかいいち」は地域活動に積極的に参画するとともに、地域農業の中核として中山間地域を生かした水稲を主体に高付加価値（減化学肥料・減農薬栽培）栽培や販売を目指しながら、白ねぎ等の野菜栽培の導入や後継者育成も図るとともに、作業効率向上のために高性能田植機やコンバインなどの農業用機械を整備していきたいと思う。

そして地域と地域の農業を守るために、良好な農事組合法人の運営を図ることにより地域の活性化に資するよう努める。

＜法人化までの経緯＞

平成　３年　５月：中井一部落生産組合を設立

平成２２年　４月：中井一水稲生産組合を設立

平成２３年　４月：農事組合法人ファームなかいいちを設立

平成２３年１０月：農業経営改善計画の認定（認定農業者）

＜農事組合法人ファームなかいいちの経営概要＞　　（平成２４年度）

資本金	千円
法人設立日	平成２３年４月１２日
事業期間	３月１日～２月末日
構成員	２３人
経営面積	７．１７ｈａ（所有地０ｈａ、借地７．１７ｈａ）
作業受託面積	０ｈａ
主要作物	水稲６．８０ｈａ（主食用 5.31ha、加工用 1.49ha）その他０．３７

2　農業経営の現状と目標

1）経営と生産の現状

主な栽培品目は水稲であり、主食用５．３０ｈａ、加工用が１．４９ｈａで、生産した米は法人構成員と集落住民等に対する個人販売と農協出荷であり、その比率はおよそ１対６である。

当集落や周辺地域は、高齢化や農業後継者の転出等により耕作者が減少しており、耕作放棄地を増加させないためにも農地の利用権設定が必要である。現在、当法人が利用権を持つ面積は７．１７ｈａだが、今後も周辺農家と利用権設定を図り経営面積の拡大を計画している。

栽培に係る労働力は構成員とその家族や集落の住人にも協力を得ている。

当法人の運営は定期的（月１回程度）に運営委員会を開催するとともに、農繁期には毎週運営委員会を開催して作業状況の確認と意思の疎通を図りながら事業を進めている。

経理については、会計担当運営委員が担当し、税務は青色申告を行っている。

農業用機械は生産組合と実行組合所有のものを使用しているが、当法人が順次整備す

る計画である。

2）経営規模等の現状と計画　　（単位：ａ）

区分			<参考> Ｈ２２ 生産組合	Ｈ２３ （実績）	Ｈ２４ （計画）	Ｈ２５ （計画）	Ｈ２６ （計画）
			水田	水田	水田	水田	水田
経営耕地	所有地		0	0	0	0	0
経営耕地	借入地		700	665	717	800	869
作物	水稲	ひとめぼれ	523	318	531	500	456
作物	水稲	きぬむすめ	0	203	0	40	100
作物	水稲	日本晴（加工用）	0	131	149	250	283
作物	白ネギ（転作）		0	0	0	10	30
作物	大豆		177	13	0	0	0
作物	自己保全（れんげ等）		0	0	37	0	0

3）農業機械・施設の整備状況（平成２４年５月現在）

法人所有の機械・施設はなし

参考までに生産組合等が所有する機械・施設を記載。

区分	台数	能力・面積	導入年度	備考
乗用田植機（４条）	１台	クボタ SPJ45AASDMHY	H14	生産組合所有
乗用田植機（４条）	１台	クボタ SPU-40	H21	生産組合所有
自脱型コンバイン（２条）	１台	クボタ R195AGOWS50	H15	生産組合所有
自脱型コンバイン（２条）	１台	クボタ ARN219GDXWS50	H21	生産組合所有
乾燥機（２４石）	１台	サタケ CDR24-BZR	H ８	生産組合所有
乾燥機（１２石）	１台	サタケ RMDR12SD	H12	生産組合所有
籾摺り機	１台	サタケ NPS450DXA	H15	実行組合所有
精米機	１台	カンリュウ SR2230ES	H22	実行組合所有

※　当面は中井一部落生産組合所有の農業用機械を借上げて作業をすることとし、順次、農業用設備と機械を整えて作業効率の向上を図っていく。

4）プランの目標

①農用地利用権設定を促進し、経営規模を拡大する。

・目標：３頁の表「２）経営規模等の現状と計画」を参照

②農業機械の導入により作業効率と収量・品質の高位平準化を図る。

・目標：食用米の収量４５０ｋｇ／１０ａで１等米比率５０％以上、
加工米の収量５４０ｋｇ／１０ａで１等米比率５０％以上

③新規作物（白ねぎ）の栽培に取り組み、複合的経営により経営の安定を図る。

・目標：白ねぎ作付面積３０ａ、販売目標金額　　円

④減農薬・減化学肥料栽培に取り組み、安心・安全なコメの栽培を行う。

・目標：農薬費、化学肥料費２０％減

⑤田んぼの学校を開催し、地域の児童と非農家の者をはじめ、地域外の者まで対象を広げ農業体験を提供するとともに、交流を図る。

・目標：年３回開催

5）現状での課題

①栽培管理の課題

・収量の確保ができていない、原因として土づくりが行われていないことが考えられ、堆肥の投入等が必要。

・法人の機械整備が遅れているために、作業効率が悪く、機械メンテナンスに時間をとられてしまい、水管理、防除等の基本的な作業を徹底することができない。

・収穫の作業時間が限られ、刈り遅れを原因とする２等米率が多い（Ｈ２３実績）。

②経営の課題

・現在７．１７ｈａの農用地を集積している。今後、当法人が集積を続けなければ周辺地域に耕作放棄地が増加することが予想される。

・水稲収量の確保ができていないために、販売収入が不十分である。

・経営を安定させるためＨ２５年度から白ねぎ栽培を行う計画だが、出荷調整施設や機械が整備されていない。

③販売の課題

・構成員、集落の希望者に直接販売する以外はＪＡ鳥取いなばに販売しているが、経営を安定させるため、販売単価の高い直接販売を図っていく必要がある。

3　目標に対する取り組み内容と効果

1）目標に対する具体的な取り組み

①　農用地利用集積

将来を見据えて徐々に必要な機械を整備し、当法人が地域農業の中核となり農業を守る。

平成２６年度には８．６９ｈａの経営面積とすることを目標に、周辺集落（鹿野、

本角）を含め、新たに約１．６ｈａの農地を集約する予定である。

② 若手オペレーターの法人への参加

当法人のオペレーターは現在８人で平均年齢が６４歳と高齢化が目立っており、担い手育成のため、「人・農地プラン」に取組み、より広い地域農業構想を樹立し、地域農業の継続と安定した経営に努める。（８人・平均６４歳 ⇒ １０人・平均６０歳）

③ 作業の効率化

現在は生産組合の機械で作業を行っているが、コンバイン、田植機については、生産組合の機械を含めても下限面積を超えて作業を行っているため、新たに３条刈コンバイン、５条植田植機や動力噴霧機を整備し作業の遅れを防ぐ。

④ 新規作物としての白ねぎ栽培の導入

皮剥ぎ機、コンプレッサーや出荷調整のための作業小屋を整備し、平成２５年より新たに白ねぎ栽培に取り組む。栽培技術の指導は集落内の認定農業者M氏（栽培面積１１ｈａ）や関係機関に指導を積極的に受けて目標販売金額は　　円を目指す。

⑤ 水稲の特別栽培への取り組み

安全、安心で付加価値のある水稲栽培を行うため、当法人のブランド米としての減化学肥料、減農薬による特別栽培米の生産に取り組む。

○具体的な取り組みのスケジュール（案）

事業区分		H24	H25	H26	実施主体
経営規模の拡大		○	→	→	法人
白ネギ栽培			○	→	法人
オペレーターの育成		○	→	→	法人
雇用の拡大			○	→	法人
減農薬・減化学肥料の水稲栽培			○	→	法人
機械の導入	格納庫・作業庫	◎			県、市、法人
	動力噴霧機		◎		県、市、法人
	乗用田植機(5条)		◎		県、市、法人
	白ねぎ皮剥機		◎		県、市、法人
	コンプレッサー		◎		県、市、法人
	自脱型コンバイン(3条)			◎	県、市、法人

○：法人による取り組み、　◎：チャレンジプランを活用した取り組み

4　支援事業の内容

導入年度	事業区分	事業費（税別）	備考
H24	機械格納庫・作業場	10,568 千円	がんばる農家プラン事業による導入を計画 県　　1／3 鳥取市　　1／6 事業主体　1／2
H25	動力噴霧機	480 千円	
	乗用田植機（5条）	2,440 千円	
	白ねぎ皮剥機	267 千円	
	コンプレッサー	263 千円	
H26	自脱型コンバイン（3条）	3,450 千円	
	計	17,468 千円	

5　参考資料・添付資料

（1）収穫量（H２３実績）　　（単位：ｋｇ）

品　　種	主食用米			加工用米	収穫量合計	備　　考（反収 kg）
	ＪＡ出荷	直販売		ＪＡ出荷		
		構成員	その他			
ひとめぼれ	6,240	2,940	1,080	1,860	12,120	378
きぬむすめ	7,470	300	90	0	7,860	390
日本晴	450		0	4,950	5,400	402
合　　計	14,160	3,240	1,170	6,810	25,380	390／498（78%）